



20 鈴木長吉

《百寿花瓶》 一对

明治二十七年（一八九四）

銀、鑄造

各口径一八・四 高五三・五

花瓶の胴部に篆書で「寿」という字をさまざまな字体で一行五字ずつぐるりと二十行配して百寿とした花瓶である。一对なので総じて二百字となるが同じ字形のものがひとつとしてない。中国を起源とする吉祥意の伝統的な意匠である。鳳凰耳を肩に付けた花瓶で首の前後に御紋を置き、それを取り囲むように雲文を配し、文字や雲文の部分が蠟型鑄造により精巧に陽鑄された作品である。本作は明治天皇の大婚二十五年を奉祝して司法次官清浦奎吾以下、司法部内勅奏判任官一同から献上された品である。銘はないが、明治二十九年に鑄金の分野で唯一帝室技芸員に任命された鈴木長吉（一八四八～一九一九）による作品である。

鈴木は武蔵国（埼玉県）に生まれ、岡野東麓齋に蠟型鑄造を学び、海外への工芸品の輸出を目的として設立された起立工商会社の委託を受け、輸向けに金工品を数多く手がけた。一八八五年のニュルンベルク万国金工博覧会へ出品の「鶯置物」が絶賛され金賞を受賞、一八九三年シカゴ万国博覧会でも高い評価を得た。鈴木は一九〇〇年パリ万国博覧会では御下命のもとに「岩上ノ虎置物」（東京国立博物館所蔵 58頁参照）を制作しており、この出品物についての解説書および履歴書が『巴里萬国大博覧会出品録』のなかに綴られている。この履歴書のなかで皇室との関連作品を列挙しており、その最初の項目で大婚二十五年の折の献上品作品について触れている。これにより長吉は本作のほか、銀製双鶴置物など各所より献上の銀製鑄造物の制作に関わっていたことが知られる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

皇室技芸員と一九〇〇年パリ万国博覧会

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 47

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年七月十九日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections